

全国小学校国語教育研究会主催 第36回 夏季実践交流セミナー

(5) 授業実践発表と協議会〈第4分科会〉【資料】

実践発表「子供が変わる！対話のある国語教育を目指して」

—5ラインズを活用した自己・相互評価を通して— から学ぶこと

助言者 全国小学校国語研究会 参与 須釜 久美子

1 「学びに向かう力、人間性等」

(「学習評価の在り方ハンドブック」P.6 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター 令和元年6月)

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

- ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている。
- ・粘り強い取組を行う中で、自らの学習状況を調整しようとしている。

(2) 個人内評価を通じて見取る部分

2 東京都教育委員会「児童生徒の学力を図るための調査」(令和5年度)から

【調査項目】「4 学習の進め方(教科共通)」

- (1) 確実にできるようになるまで、繰り返し練習している。
- (2) 難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる。
- (3) 分からないことがあっても、学習を続けるようにしている。
- (4) 集中して学習に取り組んでいる。
- (5) どうやったらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている。
- (6) 学習の中で、わからないところやできないところはどこかを考えている。
- (7) 学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。
- (8) 学習の途中で、わからないところやできないところはどこかを考えている。
- (9) 他の人と意見が違ったときは、質問をして相手の考えを確かめている。
- (10) 分からないときは、他の人や先生に質問して解決している。
- (11) 自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。
- (12) 他の人と相談して、考えを深めるようにしている。
- (13) 学習して分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている。
- (14) どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している。
- (15) 答えだけでなく、考え方も確かめながら学習している。
- (16) 大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。

3 「主体的」に学ぶ(「小学校学習指導要領解説総則編平成29年7月」P.77)

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」

◎ 「5ラインズ」を活用した実践が育む「主体的に学習に取り組む態度」

- ・見通しを持って取り組む…5ラインズ、グラウンドルールによる目標の共有、
- ・振り返り…自己評価・相互評価 観察者と対話実演者を分ける・ICTの活用
- ・次につなげることができる年間計画と単元の工夫

4 「対話的」に学ぶ （「小学校学習指導要領解説総則編平成 29 年 7 月」P,77）

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考え方を広げ深める「対話的な学び」

◎ 「対話的な学び」を成立させる「5 ラインズ」の対話スキル

・協同的に取り組む ・明確にする ・考えを支える ・比較し整理する ・対話を進める

5 国語科「話すこと・聞くこと」の指導事項

（「文部科学省 小学校学習指導要領「国語」解説「A 話すこと・聞くこと」領域の指導事項」p, 30）

（「文部科学省 中学校学習指導要領「国語」解説「A 話すこと・聞くこと」領域の指導事項」p, 30）

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	（中）第1学年
話題の設定、情報の収集、内容の検討	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
構成の検討、考えの形成（話すこと）	イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。	イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。	イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。
表現、共有（話すこと）	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。	ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
構造と内容の把握、精査、解釈、考えの形成、共有（聞くこと）	エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。	エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。	エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。	エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点を踏まえて、自分の考えをまとめること。
話し合いの進め方の検討、考えの成、共有（話し合うこと）	オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること	オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

（1）「5 ラインズ」の可能性

（2）目的意識

【小学校「A 話すこと・聞くこと」思考力、判断力、表現力等】

「相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる」

（引用：「第11回国語ワーキンググループの議題 議題1」文部科学省 令和8年6月19日）

- ・帯単位では
- ・「話すこと・聞くこと」の領域では
- ・国語科では
- ・他教科や合科的な単位、総合的な学習の時間では